

道徳 五年 「ありがとう上手」に

◇用意するもの…教科書・ノート（記録できる紙）・筆記用具

◇考えを書く場面では、なんでもよいので紙を用意して考えや気もちを言葉にしてみましよう。

・あなたは、「ありがとう」という言葉をよく使いますか？また、どんなときに使うでしょうか。

・では、「ありがとう」という言葉をうまく言えなかったことはありませんか？それは、どんな場面だったか思い出してみましよう。

めあて…「ありがとう上手」な人とはどんな人か考えよう。

「ありがとう上手」に

【あらすじ】

バスに乗っていると「ありがとうございました。」と運転手さんに言っている人がいることに気づく「わたし」。おさないころからはずかしがりやのわたしだが、この日をきっかけに勇気を出してあちこちで言うようにしてみる。最後には、「ありがとう」を言うことのよさに気づき、「ありがとう上手」になりたいという思いをもつ。

【読みの視点…読むときに意識すること】

バスの中で「ありがとうございました。」の言葉を聞いてから、わたしの気持ち少しずつ変化していきます。どんなことに気づいたのかな。と考えながら読みましよう。

一 教科書 p10～p13 を読みましよう。

二 「わたし」は中学生と運転手さんの様子を見てどんなことを考えたでしょう。ノートに書きましよう。

三 「ありがとう」をうまく言えなかった「わたし」が、言えるようになって気づいたことはどんなことでしょうか。ノートに書きましよう。

四 「わたし」がなりたいたと思った「ありがとう上手」とは、どんな人でしょう。ノートに書きましよう。

五 自分の生活をふり返ろう。

・今まで、家族や多くの人のささえ合いであなたの生活が成り立っていると感じたことはありますか。



## 六 先生の話

先生も「わたし」と同じで、幼い頃は、はずかしがりやでした。特に初めて会う人には緊張してしまつて自分から声をかけることはとつても勇気のいることでした。

先生が通っていた小学校でも、地域の方が通学路で見守りをしてくれました。はずかしがりやの先生は、「声をかけて気づいてもらえなかったらはずかしいし。」「相手は私を知らないかもしれないし。」と、目を合わせず足早に通り過ぎていました。でも、心の中はもやもやしていて、自分から挨拶あいさつできたらな。と、ずっと思っていました。

今日は、自分から挨拶しよう。そう決めて家を出ました。小さな声だったけれど「おはようございます。」と声をかけてみると「ありがとう。いってらっしゃい。」という声が返ってきました。自分から言えたという嬉しさと、「ありがとう」という言葉を返してもらった嬉しさとで心がほかほかになりました。「ありがとう」って嬉しいなあ。私も言えたらいいなあ。

それから「ありがとう」が言える場面では、声に出してみることにしました。通学路で見守りをしてきている人、玄関先をほうきではいてくれる人、転んだ時に声をかけてくれる友達、朝早く起きて朝ご飯を用意しておいてくれるお母さん。こんなにありがとうが言える場面があるんだ。と気づきました。

先生は、「ありがとう上手」は、ありがとうが言える場面を見つけて、勇気を出して「ありがとう」を表せる人なんじゃないかなあ。と思います。小さな声でもいいし、目で合図でもいいし、とにかく相手に伝えること。そうすると、ありがとう上手になって、いろんな人に支えてもらっていることに気づけると思います。

## 七 学習のふり返り

・道徳の学習を通して、思ったことこれからに生かしたいことをノートに書きましよう。